



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月5日

上場会社名 株式会社AOKIホールディングス
 コード番号 8214 URL <http://www.aoki-hd.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青木 彰宏
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 (氏名) 田村 春生
 四半期報告書提出予定日 平成28年2月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (TEL) 045-941-1388

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	131,030	2.8	8,311	△3.2	8,164	△4.2	4,720	△5.7
27年3月期第3四半期	127,405	3.5	8,584	△6.9	8,520	△11.5	5,006	△8.8

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 4,744百万円(△16.7%) 27年3月期第3四半期 5,697百万円(3.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	52.19	—
27年3月期第3四半期	54.90	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第3四半期	221,809	139,159	62.7
27年3月期	230,166	139,675	60.7

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 139,072百万円 27年3月期 139,675百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	18.00	—	18.00	36.00
28年3月期	—	20.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	191,050	3.9	20,000	5.1	19,900	5.2	11,300	10.9	125.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	28年3月期3Q	90,649,504株	27年3月期	91,249,504株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	667,358株	27年3月期	66,492株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	28年3月期3Q	90,439,736株	27年3月期3Q	91,183,784株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビューが実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、全体的には緩やかな回復基調が継続しておりますが、海外経済の下振れ懸念などから、先行きは依然として不透明な状況で推移しております。また、個人消費につきましては、所得や雇用環境の改善は見られるものの、食料品等の価格上昇が継続するなか暖冬の影響などもあり足踏み状態となっております。

このような環境のなかで、当社グループは各事業において下記のような諸施策を実施した結果、売上高は1,310億30百万円（前年同期比2.8%増）、営業利益は83億11百万円（前年同期比3.2%減）、経常利益は81億64百万円（前年同期比4.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は47億20百万円（前年同期比5.7%減）となりました。

セグメントごとの業績は、以下のとおりです。

(ファッション事業)

AOKIでは、スーツのトレンドカラー「NAVY&BROWN」や人気の「ジレ（ベスト）スタイル」等の提案を実施いたしました。また、新たなアイテムの提案として、1着で2通りの着こなしが楽しめる「リバーシブルシリーズ」やORIHICAとコラボレーションしたセットアップスーツ（ジャケット・パンツスタイル）等を展開いたしました。レディースは、快適な着心地と新たな機能性を付加しお手入れが楽でありながら、きちんと感とキレイなシルエットを追求した「楽・らく・キレイ」シリーズの品揃えを強化いたしました。店舗面では、期初からの累計で10店舗を新規出店した一方、移転等による2店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は565店舗（前期末557店舗）となりました。

ORIHICA（オリヒカ）は、初のテレビCMの放映や業界初となる「POP UP SHOP」を出店するなど、ブランドの認知度向上を図りました。店舗面では、期初からの累計で11店舗を新規出店した一方、営業効率改善のため6店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は146店舗（前期末141店舗）となりました。

これらの結果、新規出店効果等により、売上高は738億42百万円（前年同期比0.6%増）、営業利益は天候要因等により既存店が苦戦し18億52百万円（前年同期比14.6%減）となりました。

(アニヴェルセル・ブライダル事業)

ゲストハウスウェディングスタイルの挙式披露宴施設を展開しているアニヴェルセル株式会社では、接客ノウハウの共有化による成約率の向上と施設ごとの強みやコンセプトを活かした販促・PRを強化いたしました。また、プロポーズ・プランナーを発足しプロポーズプランを実施するとともに、ベビーリングの発売開始や記念日レストランを推進いたしました。

これらの結果、売上高は235億20百万円（前年同期比2.8%減）、営業利益は35億8百万円（前年同期比6.3%減）となりました。

(カラオケルーム運営事業)

株式会社ヴァリックのカラオケルーム運営事業は、季節感たっぷりの期間限定メニュー及び忘年会シーズンに合わせた多彩なパーティーコースの提案とキャンペーンを実施するとともに、最新映画が個室で鑑賞できる新サービス「プライベートシネマ」導入店舗を拡大し来店促進を図りました。店舗面では、期初からの累計で7店舗を新規出店した一方、1店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は175店舗（前期末169店舗）となりました。

これらの結果、売上高は137億30百万円（前年同期比4.7%増）、営業利益は11億75百万円（前年同期比1.2%減）となりました。

(複合カフェ運営事業)

株式会社ヴァリックの複合カフェ運営事業は、冬季限定ラーメンフェアのメニューの提案強化及び専用の電子書籍サービス「雑誌・読み放題」の全店導入等により既存店の活性化に注力いたしました。店舗面では、初となる女性専用店舗の秋葉原駅前店等、期初からの累計で30店舗を積極的に新規出店した一方、1店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は289店舗（前期末260店舗）となりました。

これらの結果、新規出店効果と既存店が引き続き好調に推移したこと等により、売上高は199億68百万円（前年同期比19.7%増）、営業利益は16億63百万円（前年同期比31.2%増）と大幅増収増益になりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ83億56百万円減少し、2,218億9百万円となりました。

流動資産は、たな卸資産が新規出店等により39億99百万円増加した一方、現金及び預金が設備投資や法人税等の支払い等により122億28百万円、売掛金が季節的要因等により34億89百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ98億33百万円減少いたしました。固定資産は、有形固定資産が新規出店等により11億91百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ14億76百万円増加いたしました。

(負債)

流動負債は、短期借入れを50億円実施した一方、買掛金が季節的要因等により34億48百万円、未払法人税等が法人税等の支払いにより31億57百万円及び未払金等のその他が29億66百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ58億2百万円減少いたしました。固定負債は、長期借入金が約定返済等により27億25百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ20億38百万円減少いたしました。

(純資産)

純資産の部は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益及び剰余金の配当により12億79百万円増加した一方、自己株式の取得及び消却により資本剰余金が9億23百万円減少し、自己株式が9億82百万円増加したこと等により前連結会計年度末と比べ5億15百万円減少しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績については、予想をやや下回って推移しておりますが、ファッション事業における第4四半期の比重が高く、平成27年11月6日に公表した業績予想を修正しておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間については、四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	29,226	16,998
売掛金	8,991	5,501
たな卸資産	26,476	30,475
その他	9,112	11,008
貸倒引当金	△37	△47
流動資産合計	73,769	63,936
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	58,959	60,077
土地	37,095	37,013
その他(純額)	12,253	12,409
有形固定資産合計	108,308	109,500
無形固定資産	6,550	6,479
投資その他の資産		
差入保証金	8,333	8,296
敷金	20,176	20,376
その他	13,068	13,260
貸倒引当金	△40	△40
投資その他の資産合計	41,538	41,893
固定資産合計	156,396	157,873
資産合計	230,166	221,809
負債の部		
流動負債		
買掛金	19,867	16,418
短期借入金	—	5,000
1年内返済予定の長期借入金	4,450	4,050
未払法人税等	3,789	631
賞与引当金	1,735	922
役員賞与引当金	105	88
その他	13,450	10,484
流動負債合計	43,397	37,594
固定負債		
長期借入金	35,325	32,600
役員退職慰労引当金	1,838	1,817
ポイント引当金	958	923
退職給付に係る負債	382	437
資産除去債務	4,773	5,037
負ののれん	54	33
その他	3,761	4,205
固定負債合計	47,093	45,055
負債合計	90,491	82,649

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	28,757	27,833
利益剰余金	86,658	87,938
自己株式	△45	△1,027
株主資本合計	138,654	138,027
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,229	1,185
退職給付に係る調整累計額	△208	△141
その他の包括利益累計額合計	1,021	1,044
新株予約権	—	87
純資産合計	139,675	139,159
負債純資産合計	230,166	221,809

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	127,405	131,030
売上原価	68,879	71,854
売上総利益	58,526	59,175
販売費及び一般管理費	49,941	50,864
営業利益	8,584	8,311
営業外収益		
受取利息	78	80
受取配当金	127	122
不動産賃貸料	463	456
負ののれん償却額	31	31
その他	199	202
営業外収益合計	899	893
営業外費用		
支払利息	233	248
不動産賃貸費用	397	409
固定資産除却損	67	219
その他	265	163
営業外費用合計	964	1,040
経常利益	8,520	8,164
特別利益		
投資有価証券売却益	—	41
特別利益合計	—	41
特別損失		
減損損失	662	390
訴訟和解金	—	439
特別損失合計	662	829
税金等調整前四半期純利益	7,857	7,376
法人税、住民税及び事業税	2,301	2,019
法人税等調整額	549	636
法人税等合計	2,851	2,656
四半期純利益	5,006	4,720
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,006	4,720

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	5,006	4,720
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	610	△43
退職給付に係る調整額	80	66
その他の包括利益合計	691	23
四半期包括利益	5,697	4,744
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,697	4,744
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)

自己株式の取得及び消却

当社は、平成27年5月8日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,200千株の取得及び600千株の消却を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が923百万円減少及び自己株式が982百万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金及び自己株式がそれぞれ27,833百万円及び1,027百万円となっております。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ファッション 事業	アニヴェル セル・プラ イダル事業	カラオケ ルーム 運営事業	複合カフェ 運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	73,432	24,179	13,105	16,688	127,405	—	127,405
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4	11	3	—	19	△19	—
計	73,437	24,191	13,108	16,688	127,425	△19	127,405
セグメント利益	2,168	3,742	1,190	1,268	8,370	214	8,584

(注) 1. セグメント利益の調整額214百万円には、セグメント間取引消去3,241百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△3,027百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」の各セグメントにおいて、店舗の移転が決定し回収が見込めなくなった又は損益が継続的にマイナスとなっている営業店舗及び回収可能価額が帳簿価額を下回っている遊休資産について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においてはそれぞれ246百万円、269百万円及び120百万円です。

当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ファッショ ン事業	アニヴェル セル・プラ イダル事業	カラオケ ルーム 運営事業	複合カフェ 運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	73,837	23,496	13,728	19,967	131,030	—	131,030
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4	24	2	0	31	△31	—
計	73,842	23,520	13,730	19,968	131,061	△31	131,030
セグメント利益	1,852	3,508	1,175	1,663	8,200	110	8,311

(注) 1. セグメント利益の調整額110百万円には、セグメント間取引消去3,290百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△3,179百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖が決定し回収が見込めなくなった又は損益が継続的にマイナスとなっている営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においてはそれぞれ109百万円、133百万円及び147百万円です。